

雄勝稲作情報

No.7 令和7年8月28日



発行 ● 秋田県農業協同組合連合会
秋田県農業協同組合連合会
湯沢市農業総合指導センター
東成瀬村農業総合指導センター
秋田県農業共済組合
監修 ● 雄勝地域振興局農林部農業振興普及課
雄勝地方病虫害防除員協議会

生育状況について（8月18日現在）

定点調査結果（「あきたこまち」8地点平均）

田植：本年5月22日

		穂数 (本/㎡)	葉数 (葉)	着粒数	
				粒/穂	粒/㎡
本年		404	13.0	78.2	31,448
平年		445	12.9	73.4	32,568
本年比		91%	+0.1葉	107%	97%
前年		437	13.2	77.2	33,724
前年比		93%	-0.2葉	101%	93%

※雄勝地域振興局農林部農業振興普及課調べ

管内の出穂期は、生育が早めに推移したことから、平年より1日早い8月1日でした。

8月18日現在の定点調査結果（「あきたこまち」8地点）では、穂数は404本/㎡（平年比91%）と少なく、一穂着粒数は78.2粒（同比107%）と多いものの、㎡当たり着粒数は31,448粒（同比97%）とやや少なくなっています。

㎡当たり着粒数を標高別でみると、平年と比べ、ほとんどの地点で少ない傾向にあります（右図参照）。

本年は、7月中旬から8月1半旬までは高温多照で経過し、初期登熟は進んでいると考えられます。8月2～3半旬は平年並の気温で経過し、高温登熟の懸念は弱まったものの、今後も気温は高い見通しのため、稲体の消耗や、茎葉から穂へのデンプン転流阻害による登熟歩合の低下、未熟粒の発生が懸念されます。

各ほ場をよく観察し、登熟の向上を図るための適正な水管理を徹底するとともに、畦畔除草、作業機械や乾燥施設等の点検等を実施し、品質の維持・向上に努めましょう。

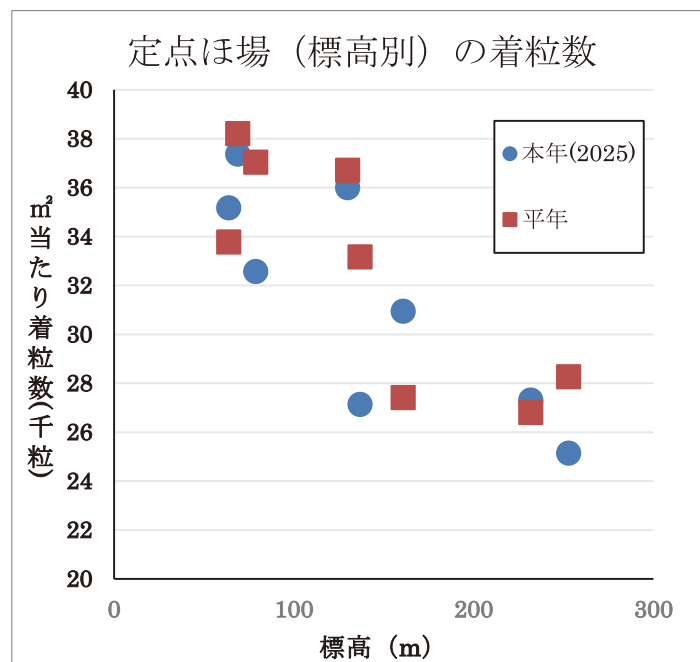


図 定点ほ場(標高別)の着粒数

収穫前の当面の管理について

(1) 登熟の向上を図る水管理

落水時期は出穂後30日頃を目安とし、高温登熟の場合、早期落水は白未熟粒や胴割れ等の品質低下、登熟歩合の低下による収量への影響が懸念されます。

落水までの期間は、土壌水分を保持しながら、稲体の活力を維持することが重要です。開花後25日間は米粒が肥大するため、土壌水分が不足しないように注意します。また、生育が旺盛な場合は、遅くまで肥大しますので、落水が早すぎないように注意してください。

(2) 斑点米カメムシ類の防除対策

農道や畦畔の草刈りは、収穫2週間前になってから行いましょう。

安全確認と予防対策を十分に行い農作業事故を防ぎましょう！

秋田県では、9月10日から10月20日までを「秋の農作業安全運動」期間とし、農作業中の事故防止を呼びかけています。秋の農繁期は、コンバイン等での収穫作業が中心となることから、特に農作業機械による事故に注意しましょう。



- 点検整備・清掃作業では、エンジンを停止しましょう。
- 手こぎ作業は、適切な服装で機体の内側に手を入れないようにしましょう。
- 圃場内への漂着物等は収穫時の事故につながるため、確実に除去しましょう。

周囲の環境を汚さない 環境に優しい米作りをしましょう！

秋田県では、**稲わら焼きは原則禁止**されています。
特に、周囲への影響が大きい10月1日から11月10日の間は、**全面的に禁止**されています。



刈り取り適期は穂の黄化程度も加味して総合的に！

出穂後の好天が続き、初期登熟は順調に推移しています。出穂後の積算気温が早生種で1,100℃、中晩生種で1,200℃を超えると胴割れ米が増加しますので注意が必要です。

刈り取り適期は品種やほ場条件等で異なるため、登熟歩合を高めるためには、温度だけで判断すると青米が多い場合があるため「積算気温・積算日照時間・穂の黄化程度」をそれぞれ確認することで、適期を総合的に判断してください。

○今年の出穂期後の積算気温による刈取適期予想（アメダス湯沢）

出穂期	積算気温到達日					積算日照時間到達日
	950℃	1,000℃	1,050℃	1,100℃	1,150℃	200 h
7月28日	9月5日	9月7日	9月9日	9月12日	9月14日	8月24日
7月30日	9月7日	9月10日	9月12日	9月15日	9月17日	8月29日
8月1日	9月10日 (1日早い)	9月12日 (2日早い)	9月15日 (1日早い)	9月17日 (2日早い)	9月20日 (1日早い)	9月2日 (3日早い)
8月3日	9月13日	9月15日	9月18日	9月21日	9月23日	9月7日
8月6日	9月17日	9月20日	9月22日	9月25日	9月28日	9月10日
8月9日	9月21日	9月24日	9月26日	9月29日	10月2日	9月12日

* 8月1日が管内の出穂期（管内の50%が出穂期を迎えたと判断された日）

* 8月20日以降のデータは平年値を使用。

* （ ）内は平年値との比較。

▼刈り取り時期の判定の目安

① 出穂後の日数による判定
早生種（あきたこまち等）で出穂後45日前後 中晩生種（めんこいな・ゆめおぼこ等）で出穂後50日前後
② 出穂後の積算気温による判定
出穂後の日平均気温の積算値 早生種：950～1,050℃ 中晩生種：1,050～1,150℃
③ 籾の黄化程度による判定
葉や穂首が緑色であっても籾の黄化程度が90%以上の頃 ※ただし高温の場合は85%以上
④ 枝梗黄化程度による判断
主軸の上から5番目の枝梗まで黄化した頃

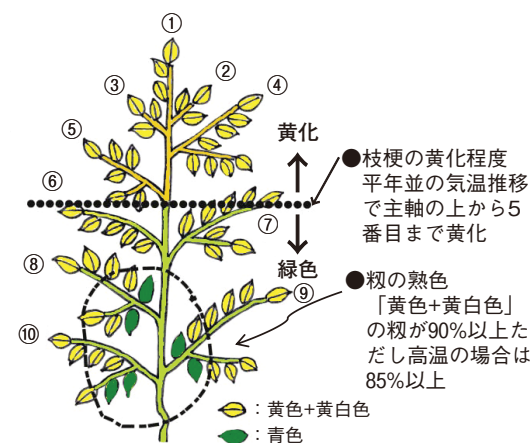
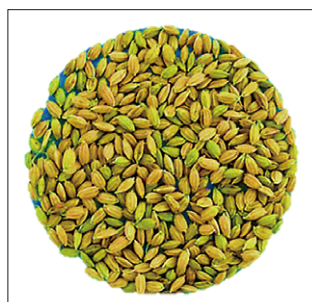


図 籾の熟色、枝梗の黄化程度による刈り取り適期の判断（模式図）

黄化率のイメージ写真



黄化率30%



黄化率50%



黄化率65%



黄化率80%

収穫作業と乾燥調製

(1) コンバイン収穫

- ① 損失粒やワラ・穀粒の詰まりが発生しないように、稲の生育量に合わせた作業速度で行いましょう。
- ② 収穫時の籾水分は25%以下が望ましく、収穫作業は稲体が乾燥している午前10時～午後5時頃に行いましょう。

(2) 台風等による被害対策

台風は強い風雨を伴うため、倒伏や風水害、進路によっては山脈を越えた乾いた空気が、高温の風となって吹くフェーン現象の原因となります。

特に、倒伏が発生すると受光体勢が著しく悪化し、登熟の低下による減収と穂発芽による品質低下を招くことから、倒伏した場合は次の事項を実施しましょう。

- ① 圃場の停滞水は速やかに排水しましょう。
- ② 登熟後期の場合は早めに刈り取るとともに、追い刈りや横刈り等により刈り取り精度の向上に努めましょう。
- ③ 穂発芽した場合は、品質低下防止対策で刈り分けを行いましょう。

(3) 高品位米に仕上げるための乾燥・調製

① 乾燥作業の留意点

- 乾燥機の特徴、操作手順をよく理解しましょう。
- 高水分籾の刈り取りを避け、わら屑の混入を少なくし籾の循環を良くしましょう。
- 乾燥前、中、後のそれぞれの工程で正確な水分測定を行いましょう。
- 水分が多い籾や活青米の多い籾などは、籾含水率が18～20%まで低下した時点で乾燥機を休止し、籾全体のテンパリングを行ってから仕上げ乾燥する二段乾燥を実施しましょう。
- タイマー設定時間はやや短めとし過乾燥を防止します。自動水分計のものでもやや高めの水分で一時停止し、温度設定する時は籾の状態を考え過乾燥にならないようにしましょう。
- 乾燥の仕上がりは、玄米水分15%とします。なお、過乾燥になると胴割粒が発生するとともに食味が低下するので注意しましょう。

② 調製作業（籾摺り・選別）

〔籾摺り〕

- 籾摺り作業は、穀温が高いと肌ズレ米が発生しやすくなるので、穀温が常温まで低下してから行いましょう。
- 籾摺り機の処理量は米選機の能力に合わせ、米選機の能力以上に玄米を供給しないように注意しましょう。
- ゴムロールの摩耗程度を点検し、試し摺りを行い脱稃率^{だっぷ}が80～85%になるよう調節します。全自動の場合もゴムロールの摩耗点検は必ず行いましょう。

〔米選〕

- 網目は1.9mmを基本とし、整粒歩合80%以上を確保しましょう。
- 規定範囲内の流量で選別しましょう。